

2020年東京大会時の交通輸送円滑化の推進に向けた基本的な考え方

平成 29 年 5 月 18 日

2020交通輸送円滑化推進会議

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、1964年以来56年ぶりに開催される世界最大のスポーツの祭典である。オリンピック大会においては延べ約800万人、パラリンピック大会においては延べ約240万人の大会関係者及び観客が見込まれ、選手村、競技会場等が分散している中、安全、円滑、迅速な輸送の実現は大会成功のカギとなる。

経済活動が集積する東京をはじめとする都市において、平時の市民生活や経済活動を維持しつつ、円滑な大会輸送を実現するため、広く輸送のあり方を検討することが必要であり、大会での経験が将来に向けてのレガシーとなるべく、関係者が一致協力して準備に取り組み、実現を図ることが必要である。

このため、2020交通輸送円滑化推進会議において、政府、組織委員会、東京都、関係自治体と経済界が一体となって、以下の基本的な考え方に基づき、組織委員会及び東京都が主催の輸送連絡調整会議等における客観的データに基づく輸送運営計画の検討を踏まえ、国民の交通行動を見直す取組に係る関係者間の調整、合意形成等を推進していく。

1. 国民や企業等の理解と協力の下、大会に係る輸送サービスの質の確保と市民生活や経済活動の安定の両立を図る。
2. 道路や公共交通機関を効率的且つ効果的に使いつつ、国民や企業等が移動の必要性、手段、ルート等の見直しを行うことにより、大会輸送と一般交通の適切な共存ができる環境を創出する。
3. 2020年東京大会を契機に、障害の有無にかかわらず、世界中のすべての人々にとってアクセスがしやすく、安全で円滑な交通環境の実現を図る。

以上